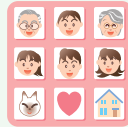


同窓会をもっと知ろう！

同窓会の窓拡大版



江戸川総合人生大学の同窓会は、同じ学び舎で過ごした日々を懐かしむ単なる親睦団体ではない、ということを知っていただくための特集です。谷口会長の熱い思いと会の活動の一端をご紹介します。

「同窓会・会員一人ひとりが、ゆとりを感じ、いきがいを感じる事が出来る活動」を目指して

同窓会長 谷口祝三

江戸川総合人生大学は2013年10月で開学10年目を迎えています。その同窓会は、会員相互の親睦を図り、本学の発展に寄与することを目的に活動を始め第7期目を迎え会員は約450人となっています。



ボランティア連絡会

卒業生の多くは2年間の学びの後、様々なボランティアグループを立ち上げ、地域貢献活動を行っています。同窓会はそのような卒業生グループの活動を様々な角度から支援を行っています。

ボランティアグループ支援活動の一つの実例を挙げますと、昨年末に開催された「忘れないで 気仙沼」があります（詳細は右側の記事を参照ください）。昨年の同窓会の活動ではこのほかに毎年恒例となった「美術講演会」で「葛飾北斎と印象派」やワークショップ「音楽が潤す人の心」などを開催しています。これらのイベントには卒業生のみならず多くの一般区民の方々にも参加・応援を頂きました。

もちろん在校生主催の最大イベント「大学祭」にも出展し、また「在校生と人生大学ボランティア連絡会の集い」を主催し、在校生が同窓会を身近に感じる機会を多く持てるよう努力しています。

「人生大学同窓会」は会員の親睦団体の枠を超え、ボランティアグループの皆様への支援を通じ同窓会自身が地域に貢献する団体へと成長を遂げています。このことはまさに人生大学



音楽が潤す人の心
同窓会ホームページ <http://jinseidaidsou.web.fc2.com/>

設立の基本理念 ●「共育」「協働」の社会づくり ●「ボランティア立区」の推進 ●「地域文化」の創造と継承を具現化していることにほかないと思います。

「忘れないで 気仙沼」レポート

2013年12月5日（木）、タワーホール船堀小ホールにおいて、「忘れないで 気仙沼」（主催：国際交流エドガワ／気仙沼支援チャリティー・イベント実行委員会、後援：江戸川総合人生大学同窓会、協力：江戸川総合人生大学）が開催された。2011年3月11日の東日本大震災による被害の大きかった気仙沼市の復旧を、江戸川区が応援したのがきっかけである。

300に近い客席は満員。受付、案内、進行等のすべてが、活き活きとした表情の腕章を巻いた人生大学同窓生によって行われた。

尺八、パーカッション、ギターのトリオに、歯切れのよい津軽三味線が加わり、軽妙な音の空間。それに粋な衣装の日本舞踊が加わると、さらに立体的となって観客の拍手を得た。

休憩時には、気仙沼を襲うツナミ、流されてゆく建物などの秒ごとの映像、ツナミが引いた直後の惨状、今現在の復興状況などが解説を交えて映写された。ホール前のロビーには気仙沼復興を呼び掛ける大ポスターや、復興現場の写真等がパネルに張り出されて観客の目を集めていた。チャリティ募金、ファンクラブ紹介、気仙沼への旅のパンフレットのある机を人々が覗き込んでいて、関心の高さを示していた。

このチャリティー・イベントは、発案・企画・構成・実行のすべてが江戸川人生大学の同窓生の手によってなされた。開会から、会場の全員による「ふるさと」大合唱での閉会まで、1分刻みのスケジュール表を作り、その通りに実行されたという。同窓生は勿論だが、現役の学生をも巻き込んだイベントで、区民の方の参加も多く、観客と主催者との一体感の感じられるとても気持ちのよい会だった。

なお、当イベントの収益金・募金計167,653円は、江戸川区を通じて気仙沼市に寄付された。

取材：国際9期 菅谷

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

- 【8期生】大塚恭子、鳥羽山晟（まち） 寺田佳子、土井芳夫（国） 大西奈津女、佐久間鑑雄（子） 石井房江、八武崎美子（介）
- 【9期生】犬飼キヨ子、衣川章嗣（まち） 菅谷洋子、峯岸和英（国） 穴戸チイ子、千葉恭子、水野真紀子（子） 榎本清一、笹田直子（介）
- 【10期生】今上義雄、中谷喜美子（まち） 大西正子、佐藤宏光（国） 五十嵐英男、中村雪子（子） 嘉陽宗善、佐々木康次郎（介）

編集長 峯岸 和英（国際9期）

編集後記

まもなく忘れてはならない3.11東日本大震災の日がやってきます。一日も早い復興を心から願うばかりです。同窓会といえば当時を懐かしんで寮歌を歌ってお酒を飲んで、というのが定番と思いきや、江戸川総合人生大学の同窓会は一味もふた味も違っています。裏面の特集で、どう違うかを少しでもご紹介できれば幸いです。8期生のアドバイスの下、当号から10期生も加わった新体制での発行となります。今後とも地域と大学をつなぐ情報の発信を心掛けていきたいと思います。ご支援をよろしくお願いします。

発行日／2014年（平成26年）3月1日

発行／江戸川総合人生大学

〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

江戸川総合人生大学発
人と地域をつなぐ情報紙



No.25

発行日 / 2014.3.1
創刊日 / 2007.4.10



<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

大学を卒業した先輩たちの社会貢献活動をレポート



江戸川から今井橋を望む[写真:介護9期 榎本]

10期生クラス探訪 新入生が出会った「学び」のなかから

江戸川まちづくり学科

「種探し」の課外授業で「NPO 法人自立支援センターむく」PC 工房等の施設見学を通して、障がい者福祉、自立支援の現状に今後の課題を学び、私達地域の一員として、社会との関わり方など多くのことを考えさせられた貴重な体験でした。



国際コミュニティ学科

今まで受講した講義の中では、韓国・朝鮮に関する霜島先生と宋先生の計4回にわたる授業が韓流ブームとも相まって大変興味深く、時間の経過も忘れるほどでした。今後、日韓関係問題を考える時にも参考になる有意義な体験でした。

子ども・子育て応援学科

講義のたびに新しい発見の連続で、「もっと早く知っていたら、いい子育てができたのでは？」と感じることがあります。子育て・孫育て中の人や、子ども達に関わる仕事経験のある人など様々ですが、徐々に学生気分に戻り受講日が楽しみです。



介護・福祉学科

話し言葉の実践力を磨くワークショップです。人前で話す緊張感を覚えながら、わかりやすく的確に情報を伝えるためにはどう話したらよいか、全員が実際に経験しました。今後の活動にも大いに役立つ内容でした。



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

卒業生の社会貢献活動をレポート

仲間とともに活動する先輩たちの団体を紹介します

大学での学びに根ざした地域貢献活動の一部です。

一緒にいいね ひなたぼっこ

共生の実践を目指して

取材：榎本(介護9期)、衣川(まち9期)
笹田(介護9期)

江戸川総合人生大学子ども支援学科(現 子ども・子育て応援学科)4期の高村ヒデさんが在学中に立ち上げたデイサービスグループです。



一緒にいいね！

大学の授業で、「富山型デイサービス・このゆびと〜まれ」の活動を知った高村さんは、すぐに富山県を訪問、その後何度も足を運んで実際の活動に参加し、代表の惣万佳代子さんの理念に共感したのだそうです。2012年3月に惣万さんを江戸川区に招いて講演会を開催、大成功を収めました。参加者の「江戸川区にもこんな活動が欲しい」「こんな場所があったら利用したい。働きたい」の声に押されて、同年6月高村さんは「一緒にいいね ひなたぼっこ」を発足させました。活動は毎月第三日曜日10時から14時まで、なぎさニュータウンの集会室で行っています。初めての利用者は近くの特別支援学校の子ども達で、放課後に遊びに寄ってくれました。だんだんと、若年層から高齢者まで幅広い年齢層が参加するようになりました。健常者も障がい者も区別なく、一緒に楽しめるよう活動しています。これこそ共生の実践です。

私たちが取材で訪問したのは寒い日で、利用者は子ども達10数人とハーモニカを演奏する年輩のお母さんでした。子どもたちは演奏が始まると一緒に歌いだし、高村さんの「アンパンマン」の読み聞かせにじっと聞き入っていました。

この活動は2013年3月にNPO法人の資格を取得し、名称を「江戸川・地域・共生を考える会」とし、「ひなたぼっこ」のほかに講演会の企画などを推進しています。高村さんは元保育士で、スタッフ27名は特別支援学校、保育園関係の友人、近所の方、江戸川総合人生大学卒業生など多彩な人たちです。

高村さんは、月一回の会を通年に拡大するため、戸建て住宅の取得に向けての活動を進めています。「今欲しいのは活動の拠点です」と将来の夢を語ってくれました。



大成功だった講演会

活動拠点：なぎさニュータウン集会室
活動頻度：毎月第三日曜日10：00～14：00
代表：高村ヒデ(子ども4期) hide-child@ezweb.ne.jp

杜の家

介護予防 認知症予防 ふれあいサロン

取材：犬飼(まち9期)、今上(まち10期)
衣川(まち9期)、中谷(まち10期)

西葛西駅近くのマンションの一室(3DK)に、介護3期の石井由紀子さんを代表として、2008年10月にスタートしました。手探りで活動、茶碗一つからの準備、コミュニティセンターやサポートセンターにしおりを置かせてもらい、口コミで徐々に会員が増えました。60歳以上の会員20名は、南葛西、清新町、臨海町、なぎさニュータウン方面から自力で通います。瑞江在住の90歳代の方もいます。健康で認知症にならないよう、仲間との交流の場として、生きがいになっているようです。



杜の家 スタッフ

スタッフ7名は人生経験もあって、栄養士、ヘルパー、介護士の有資格者がおり、大変心強く感じました。会場の無償提供も大きな力です。

お楽しみ会は第一と第三水曜日午後1時から3時まで、会費は一回200円。スタッフが一月1,000円の会費を負担し運営費にあて、毎週水曜日にミーティングやきめ細かい準備をします。

最初15～20分の体操をします。演歌を歌いながら指先、足指体操、口腔体操などを行います。次のお茶の時間は、スタッフによる四季を意識しての手作り菓子や料理(ゼリー、汁粉、おでん、ちらしずしなど)で談笑。その後、手芸、折り紙、絵画、朗読、紙芝居など、その都度有意義に過ごす工夫をしています。終わりはギター演奏に合わせ、全員で懐かしのメロディを2～3曲合唱し、余韻を残しての散会になります。

気軽に楽しめるノルディックウォーキングは葛西臨海公園で、新年会または春のお花見会は源心庵で毎年行っています。時々行う屋外でのイベントもとても楽しみにされており、悪天候でも定刻には現地集合するということです。

取材当日は三か月に一回の誕生日会が催され、記念品の贈呈などがあり、和やかな雰囲気でした。保健師による冬の健康管理講義にも、熱心に耳を傾けていました。

地域住民の皆さんと更に信頼を深め、健康で豊かな人生の実現を目指されています。

取材当日は三か月に一回の誕生日会が催され、記念品の贈呈などがあり、和やかな雰囲気でした。保健師による冬の健康管理講義にも、熱心に耳を傾けていました。

地域住民の皆さんと更に信頼を深め、健康で豊かな人生の実現を目指されています。

活動拠点：「杜の家」江戸川区西葛西5-7-8 ドミール森田404
活動頻度：毎月第一・第三水曜日(スタッフは毎週)
代表：石井 由紀子(介護3期) Email: yukko@krc.biglobe.ne.jp

江戸川アリスの会

民間レベルの友好を目指して

取材：五十嵐(子ども10期)、大西(国際10期)
佐藤(国際10期)

江戸川アリスの会(以下「アリスの会」)は、国際1期の上平恭彦さんが発起人となり、現在18名のスタッフで活動しています。「アリスの会」命名の由来は「ア」：アジア、「リ」：留学生、「ス」：助っ人だそうで、日本語を学ぶためにアジア各国から来日している留学生に、アットホームな環境を提供することを目標にしています。



サンタさん登場

アリスの会は、東葛西にある東方国際学院日本語学科の学生及び一般外国人を対象に、日本の文化に触れる機会を提供しています。都内めぐり、源心庵でのお茶会、浴衣祭りなど楽しい企画がたくさんあり、時には悩みの相談にも乗ることがあるそうです。アリスの会の代表は、毎年東方国際学院の卒業式で来賓として祝辞を述べるなど、その活動の重要性が認められています。

今回は、毎年恒例のクリスマスパーティに参加させていただきました。会場は、長島・桑川コミュニティ会館の会議室で、20名の留学生を招待して行われ、お茶で乾杯をし開会となりました。日本での生活の様子、将来の夢、母国との違い、困っていることなど話題は尽きません。将来の夢を伺ったところ、日本の企業に就職することを希望している人が多いのが印象的でした。どの学生も、日本と母国の橋渡しをして、両国の友好のため役に立ちたいという気持ちを持っていて、とてもうれしく感じました。最後にビンゴゲームをし、アリスの会からのプレゼントを手にしたときは緊張がほぐれ、みんなの暖かい笑顔が会場にあふれました。

代表の長坂龍郎さんが、「留学生はみんな純粋で、年寄りを敬う気持ちが強い。日本の若い人と触れ合う機会をもっと作り、お互いの理解を深め、民間レベルで親しい付き合いができるようにしたい。」と話しておられ、熱い思いが伝わりました。



全員で記念撮影

活動拠点：長島・桑川コミュニティ会館ほか
活動頻度：定例会年4回、イベント年5回程度
代表：長坂 龍郎(国際1期) chousan1945@jcom.home.ne.jp

鹿本小学校 学校応援団

将来ある子どもたちのために

取材：宍戸(子ども9期)、千葉(子ども9期)
中村(子ども10期)、水野(子ども9期)

私たちの先輩にあたる、子ども支援学科4期の飯沼倭雄さんに鹿本小学校の学習ボランティアについてお話を伺いました。

飯沼さんは、2年次での社会活動体験をどうするかについて考えた時、自宅が鹿本小学校の目の前で学校に関心はあったが、なんとなく入りにくいという感じがあったそうです。講義で、<教育基本法の第3条生涯学習の理念>について学び、地域と学校が連携した共有・協働の必要性が分かり、レポートを書こうと思ったことがこの活動を立ち上げるきっかけになったとのこと。2008年に立ち上げた時のスタッフは4人でした。当初は試験的な導入ということもあって、手探り状態のなか3年生の習字と算数のスタートで、小さな一歩を踏み出しました。その年の2学期に、各学年全クラスの習字(毛筆)の授業に参加してほしいと話があり、学習ボランティアとしての幅が広がりました。翌年、松木恭子校長が赴任され、さらに1年生から2年生の算数、図工、家庭科、生活等の科目の依頼があり、活動に対する理解と協力が得られボランティアの形態が確立できたとのことでした。



元気いっぱい応援団

現在スタッフ登録数は29名で、半数ぐらいは鹿本小学校の卒業生だそうです。なお、人生大学同窓生は18名が活動しています。松木校長になって4年経ちますが、飯沼さんと常に良好な関係を育み、コーディネーターとして絶大な信頼を得ていることが、松木校長の「ありがたい」という言葉から伝わってきました。また、鹿本小学校が行ったアンケート中の学習応援団に関する項目では、94%の保護者が「充実していると思う」という回答でした。

飯沼さんは「ボランティアは地域住民がする事が望ましい。自転車や歩く範囲でこられる方に協力して頂くようにしており、学習支援活動は知識があるから活動するのではなく、学校が要望している科目に沿って人選しています。」とボランティアに対する考えをお話し下さいました。ボランティアのやりがいについて、「つまずいている子にアドバイスして『あっ、わかった、できた!』と喜ばれ、楽しくなったと感じてもらい、『ありがとう』という言葉があれば最高の成功です。」と穏やかな笑顔を見せてくれました。



「できた!ありがとう」

活動拠点：鹿本小学校
活動頻度：ほぼ毎日(毎月ボランティアの時間割が変更されます)
代表：飯沼倭雄(子ども4期) Eメールなし